

特許紹介

第29卷 第2號 昭和18年2月

(附) 登録実用新案

送電線鐵塔

(登録第 303119 號 公告番號 昭和 16 年第 3243 號)
(考案者 (實用新案権者) 盛田忠男)

図-1。斜構成體(3)(3)の中間に於て主材を交叉せしめざる事により架線方向と直角方向の荷重に對し、図-2 點線(10)の如き主材交叉點(11)に於ける鐵塔上部の變位を除去し、構造上より来る鐵塔倒壊の因をなからしめた。又斜構成體の主材(8)(9)を屈折する事なく兩外

図-1.

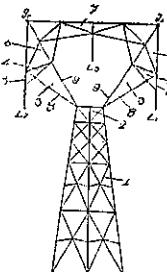
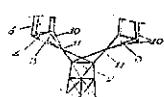


図-2.



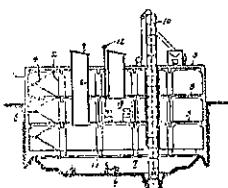
方電線並に地線に夫々連結させて、電線又は地線の張力を夫々直接斜構成體の主材(8)又は(9)を通し基體(1)に傳達し鐵塔の設計を簡易化せしめた。

地中に沈下せしむべき大建築物地下室

(登録第 303296 號 公告番號 昭和 16 年第 4198 號)
(考案者 (實用新案権者) 山元 力)

図-3。最上部階床は勿論各階床(3)迄も沈下開始前に構築した地下室に中央指令室(13)を設け、指令室

図-3.



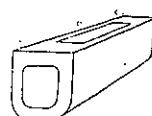
より地下室上に突出延長せる屈折望遠鏡装置(12)を設けたもので、地下室上に於ける作業又は地下室附近の運搬作業等を指令室に居ながら監視し、或は地上の他の個所に設けた指標を望見して地下室の沈下度を測定せんとするもの。

側溝用半管

(登録第 303346 號 公告番號 昭和 16 年第 2484 號)
(考案者 (實用新案権者) 三島卯四郎)

図-4。從來用ひられてゐる道路工事に於ける U 型側溝の代用として考案したもの。即ち Δ 及 C の箇所を完全に管形に構成せしめて兩壁を補強し全體としてコンクリートの厚さを薄くてすむやうにした。

図-4.



コンクリート杭埋葉用内管

(登録第 304568 號 公告番號 昭和 16 年第 5653 號)
(考案者 (實用新案権者) 中島五郎 實用新案権者 篠原三樹)

図-5。管體(a)を内管(1)の下端(2)に取外し自在に装着し施工毎に管體を地層中に造葉せしめず回収し得るやうにし、且管體(a)を中空筒状とし側壁(3)に内外連通する穿孔(4)を設けて泥状物(7)を内管(1)内より装入して内外管の間隙(6)に自由に送給せしめ得るやうにしたもの。

図-5.



地均し機

(登録第 312409 號 公告番號 昭和 16 年第 14041 號)
(考案者 保原仙太郎 (實用新案権者) 株式会社不二製作所)

図-6, 7。索引杆(8)を車體の前方に倒し又使用せざる場合は索引杆を上方に折返し得るやうにしたものであるが、索引杆は彈機(11)に依り常に上方に引かれる

図-6.

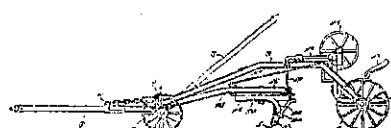
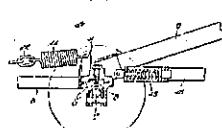


図-7.



爲、上方に折返す時は彈機に依り良く其の状態を確保して前方に傾倒する虞なく、又前方に倒す時は彈機が緩衝作用をなすものである。